



【新型コロナ
“染後”の世相】

対内広報担当理事
久貝 忠男

100年に1度の新型コロナウイルスパンデミックが収束しようとしている。私は3年前に今回のパンデミックを“戦争”に例えた。戦場は病院。医師、看護師らは“兵士”として任に当たった。世界には戦場で散っていった同士の“戦死者”も多い。エアロゾル感染は空襲のように襲いかかり、県民は自宅の“防空壕”で自粛し、じっと戦火が過ぎ去るのを待った。県立病院は最前線に陣取り、撤退は許されない状況下での長い戦いを強いられて来た。さて、このコロナ“染後”、世相はどう変わっただろうか？

疫病が歴史を変えた事例は多い。振り返ると当初、日本は迷走した。未知のウイルスに対応する医療機関も二の足を踏み、要請は“お願いベース”に終始した。沖縄では当初補助金もない中で大学病院、民間、公立・公的病院が一丸となって対応した。

感染症指定機関である公立、公的病院を突き動かしたのは使命感であろう。沖縄県は初期段階からの病床の使用状況をリアルタイムで共有し、県の対策本部に一元化して患者「たらい回し」を最小限に抑えた。自画自賛であるが北部地域は急性期病院（北部、医師会）と保健所、地区医師会で独自の3者連携を構築し実績を残した。しかし、感染症は医療だけではなく経済や社会への影響が大きく、科学（疫学）だけで答えを出すことは難しい。一時期、科学が政治も経済も社会の行く末も握った状況になり、違和感を持った国民は少なくなかった。

コロナ“染後”、国は新たに省庁の縦割りの弊害を排した司令塔となる「内閣感染症危機管理統括庁」を発足させる。今後は一元的に政策を立案・実行されることであろう。

また、国立感染症研究所と国立国際医療研究センターを統合し、いわゆる「日本版CDC（疾病対策センター）」も創設されることが決まった。大いに期待したい。新組織は科学的知見を政府に提供する「専門家組織」として位置付けられる。ただ多くの臨床家や基礎研究者がいるが、全体を見渡して提言するにはまだ改善の余地がある。

さらに、平時から公立・公的病院や特定機能病院・地域支援病院には感染症発生・まん延時に担うべき医療提供を義務付け、「特別な協定」を締結する医療機関制度を新設した。コロナ教訓が社会を動かした好事例である。

閑話休題、コロナ禍では診療報酬は入院、外来問わず半端ない特例を設けて上積された。入院重症患者には通常の3～6倍まで引き上げ、空床確保のための確保料も手厚く支援された。

沖縄県病院事業局の医業収支は赤字を計上したが、特例措置のコロナ関連補助金により、史上空前の経常黒字を記録した。これまでの累積欠損も解消した。しかし、一転、財務省は2024年の診療報酬改定で診療報酬の引き上げにクギを刺している。理由は直近3年間の医療法人の経常利益率が急増し、とりわけ診療所では1受診当たりの収入が急伸しているとの指摘である。現下の利益剰余金があれば職員の賃上げを進めることも可能との主張である。これは“内部留保金を吐き出して経営しろ”とのお達しであるが、簡単に納得がいかない。一方で、高騰する医療費も看過できない。診療報酬の総額は医療費とほぼ同じで、足元では46兆円と言われる。診療報酬の引き上げは患者負担増や保険料の上昇に直結し、少子高齢化により原資である税金や保険料は減収となる。コロナ禍が未曾有の特例措置を与えたため、“染後”に新たな悩ましい問題を生み出してしまった。

さて、2024年の医師の働き方改革はコロナ禍でもひたひたと迫っている。しかしながら、地域や科の偏在の対策も道半ばにして医療の質との両立は実現可能なのか。宿痾のように医師不足が改善しないへき地の中核病院は甚だ疑問

である。働き方改革の成功のカギは地域偏在の解消と地域医療構想の三位一体と信じており、今一度、コロナ“染後”もひるむことなく改革を前に進めて欲しい。

今年はず（辰）年である。十二支の中で唯一架空の生き物で動物園では見ることができない。でも古代中国では実在すると考えられていた。権力の象徴、正義を表し、縁起のよい動物とされている。異常気象で見る機会が増えた竜巻は天と地を繋ぐ気象現象だが、空に一直線に伸びる様子は実在しない竜が空に舞い上がるさまをかき立てる。それに依ってか、「戌亥の借金、辰巳で返せ」と辰年は景気が良くなると言い表される。

長いデフレを脱却し、賃金が上がり、物価が上がる好循環が訪れることを大いに期待したい。



新年のご挨拶

対外広報担当理事
稲富 仁

2024年、新たな年をお迎えいたしますとともに、皆様におかれましてはますますご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。今年も引き続き医師会理事として沖縄県民の皆様の健康と幸福を守るよう、微力ながら貢献していく覚悟であります。

今年には私にとっても特別な年になります。なんと、還暦を迎えることになります。この特別な年にこれまで支えていただいた皆様への感謝の気持ちと今後の決意を皆様と共有したいと思います。積み重ねてきた経験や知恵を振り返りながら、新たなステージの挑戦に向けても頑張りたいと思います。などと還暦に向けての抱負を定型文のように書いてみましたが、実際はさっぱり自覚がなく、最近でもまだ医師会青年部会に顔を出して談笑しています。

理事としては対外広報の担当をしております。

す。昨年あたりから数年間、開催されていなかった、なごみ会による県民健康フェアや県民公開講座ほか沢山のイベントが開催できるようになりました。多くの医師会の先生方や県医師会事務局の皆さんの全面的なバックアップによりどうにかなっている状態です。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。

今年はず（辰）年、木（甲）と龍（辰）の組み合わせにより、新しい始まりや成長・活力を象徴するそうです。この年生まれた人たちが勇気をもって新たなことに積極的に挑戦し、エネルギーを発揮すると書かれていました。私も甲辰生まれです。還暦で新たなステージにステップアップ出来たら良いなど、楽しみにしています。かなり他力本願というか自然の力に頼る気満々ですが、今年も暖かく見守っていただけたら幸いです。

新しい年が皆様にとって希望に満ち、健康で充実した一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。



広報委員 新年のあいさつ(2024)

対外広報副担当理事
白井 和美

皆様、いかがお過ごしですか？

去年は、我が家の山鳩にとって受難続きの年でした。

夏の初めころ、この夫婦は初めての子育てに挑戦しました。しかし、巣を作った場所が悪く、台風の強風で破壊され、卵は落下し、失敗してしまいました。しかし諦めずに二度目の子育てに挑戦。今度も間が悪く再び台風に強襲されましたが、巣は前より頑丈で、親鳥はどうか卵を強風から守り抜き孵化に成功しました。その後も野良猫との攻防を経てようやく秋には2羽の若鳥が巣立ちました。しかし、鳩が巣を作っていた木が、隣家に枝と根を伸ばし始め、話し合いの結果根元から切ることになってしまいま

した。巣立ちしたばかりの幼鳥は、巣がなくなつたため大騒ぎをしていましたが、今はあきらめて近くの電線に止まっています。彼らは人の近くで生活してきたため人に餌をもらうことに慣れていています。こちらが忘れるとしっかりと催促する術を覚え、したたかに暮らしています。来年は次世代が誕生するのでしょうか。

2024年は、トリプル改定、医師の働き方改革、インフルエンザと新型コロナ同時流行、薬剤不足に検査キット不足など、先行きに不安を感じる新年になりそうです。鳩達のようにめげずに頑張りたいものです。



甲辰の年を迎えて

広報委員（北部地区医師会）
出口 宝

世間はコロナもどこ吹く風のようになり、街の賑わいもかつての正月らしい空気に包まれて令和6年が明けました。

さて、今年の干支の組み合わせは十干1番目の甲と、十二支5番目の辰で、十干十二支41番目の**甲辰**（きのえ・たつ）です。春になり硬い殻から新芽を出していくと言う意味ですが、余寒厳しく殻硬く思うように伸ばすことが出来ない様とされています。妨害と闘いつつ、慎重に進展を図らなければ成功しない象だそうです。1184年の**甲辰**には木曾義仲が、後白河法皇と御鳥羽法皇を幽閉して征夷大將軍となるも栗津の戦いで源頼朝が送った軍勢により討たれた年でした。

ここで昨年を振り返ってみたいと思います。本会広報委員会ではコロナ禍により休止や縮小されていた活動も元のように再開されました。2020年の6・7月から合併号となっていた本誌も昨年4月からは以前のように毎月発行となり

ました。県民健康フェアもコンベンションセンターで賑やかに開催されました。一方、台風6号では久しぶりに大きな影響を受け、様々な課題が浮き彫りになりました。そして、在宅酸素療法については、沖縄県災害時HOT対策会議で協議して、本会災害医療委員会が働きかけて県保健医療部・子ども生活福祉部の担当課と災害時要配慮者や避難所や在宅酸素療法等についての意見交換会を開催しました。その後、9月6日付けで子ども生活福祉部長から市町村長宛に「災害時における避難所の生活環境の整備等について（依頼）」が発出されました。その中で在宅酸素療法利用者に対する災害時の対応について示して頂くことが出来ました。さらに、沖縄県災害時要配慮者支援事業市町村等担当者会議においては、本会災害医療委員会と沖縄県災害時HOT対策会議で取りまとめた対応計画を説明することが出来ました（対応計画内容は本誌令和5年10月号参照）。このように、県との風通しが良くなったのも新型コロナウイルス感染症に県とともに取り組んできた成果の一つであると思います。

年の初めに「おぶさった奴が養う猿回し」、江戸川柳の一句です。小職は病院の管理職になってまだ数年ですが、なるほどと頷いています。甲辰の謂れからすると、今年はどうの様な年になるのでしょうか。しかし、十干十二支の謂れがどうであれ正月はめでたいものです。今年もよろしくお願い致します。





新春のごあいさつ

広報委員（中部地区医師会）
古堅 善亮

会員の皆様、あけましておめでとうございます。去年は日本全国本当に暖冬でした。真夏日が史上最も多く、また11月に全国各地で夏日を迎えたことも記憶に新しいところです。地球温暖化の影響でしょうか？しかしネット上では地球温暖化は嘘であると主張する人もいます。数年前、学会の特別講演で古気候学の中川毅先生の講演を聴く機会がありました。非常に興味深いお話で、その後先生の著書「人類と気候の10万年史」という本を買って読んでみました。それによると地球は氷期（寒い時代）と間氷期を約10万年ごとに繰り返していて、9割が氷期で1割が間氷期です。現代はもちろん間氷期であり1万1,600年前から始まり、農業が普及した時期と一致して予想外に長く続いています。その原因としては、産業革命後の化石燃料使用による二酸化炭素など、温暖化ガスの増加が原因と言われています。しかし、温暖化ガスの増加はアジアにおける水田農耕の普及によるメタン、ヨーロッパ人による大規模な森林破壊による二酸化炭素の増加など8,000年前から始まっていたと主張する者もいるようです。IPCC（気候変動における政府間パネル）によると20世紀の100年間で北半球の平均気温が1度上昇しているが、今後100年のあいだに平均気温が最大5℃上昇すると予測しています。しかし間氷期である現在でも、火山の噴火によると思われる突然の寒冷化が起こります。1993年の冷夏で米不足に陥り、東南アジアから輸出せざるを得なくなりましたが、その原因は2年前に起こったフィリピンのピナツポ火山の噴火とされています。古くは（とはいえ、わずか250年前ですが）江戸時代の天明の大飢饉は浅間山とアイスランドのラキ火山の噴火によるものとされています。このように気候変動

は人間の力を遙かに超えたものであり、温暖化に対して果たしてどれだけのことができるのかとも考えられます。しかも必ずまた氷期はやってきます。氷期の時代の気候は現代よりかなり不安定であり数年で5～7℃の変化があったようです。未来の人間が、科学のめざましい進歩により、気候変動を乗り越えていくことを願っています。



～今年も野球を 楽しめる1年に～

広報委員（浦添市医師会）
藏下 要

昨年は、野球が久しぶりに大いに盛り上がった1年であった。WBCで世界一になったのを皮切りに、MLBではアジア人初のホームラン王を獲得した大谷翔平選手の活躍に毎日楽しませてもらった。また日本のプロ野球では、あのチームが遂に“アレ”を成し遂げ、38年ぶりに日本一にもなった。1年前の寅年に当たれば、ストーリーとしては更に意味深いものになったかもしれないが、なにはともあれ、もう50年余りもタイガースファンをやっている、やっと2回目の日本一の瞬間を見ることができたのはとにかく感慨深いものであった。

我々の子供の頃は、スポーツといえば野球、野球といえば超人気球団の〇〇という時代であった。私自身も少年野球をやっていたが、チームメイトが皆“G”の帽子をかぶっている中で、一人だけ“タイガース帽”をかぶっていた記憶がある。なぜタイガースなのか？という理由については定かではないが、ただ、“皆がやっているから”とか“周りと同じ”ということが基本的に嫌いな性格は今も変わらないので、おそらくそのあたりが関係しているのは確かではないかと思う。たかがプロ野球と言ってしまうとそれまでだが、少年期から熱狂的なファンとなると人格形成にも多少なりとも影響を受けているように思う。当時、ウチナーンチュの大多数

が“G”ファンという中で、タイガースファンであることを公言し、応援続けてきたことにより、諦めの悪さと忍耐力はそれなりに鍛えられてきたのではないかと勝手に思っている。

今や、サッカー、バスケットボール、ラグビー、卓球と多くのスポーツがプロ化され、日本人が世界レベルで戦えるようになり、観て楽しむスポーツの幅が広がったことによって、プロ野球へ関心を示す人が減ってきていることは否めない。子供時代にバットやグローブを一度も触ったこともない人が大勢いることも確かであろう。しかし昨年の盛り上がりを見ていると、この国の人にはやはり野球が好きなんだと改めて実感することができたのではないかなと思う。

今年は辰年。プロ野球には“竜のチーム”もあるが、野球界では今年もまた“寅の年”になることを信じ、MLBでの大谷選手の活躍も期待しながら、この1年も野球を楽しんで、1日1日を健康で、前向きに励んでいけたらと思う。

県医師会会員の皆様、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



マスクを外せない子供たち

広報委員（那覇市医師会）
玉井 修

4年という長きに渡って私たちを苦しめてきた新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の分類を5類に引き下げるといって一応の区切りがついたかのように見える。しかし、コロナ後遺症の問題など、コロナの暗い影は今でも私たちにつきまとっている。コロナ感染症は新興感染症というだけではなく、社会的に大きな爪痕を遺した。私が危惧しているのは中でも、マスクを外せない子供たちの存在である。それは一時的な出来事なのであろうか、長く続いたマスク着用の生活がほんの少しだけ余韻を引きずっているだけなのだろうか。無論、感染対策の為にマスクを着用する事に異を唱えるものではない。

その適応を超えたマスク着用への依存、執着、あるいはマスクを外す事への恐怖、羞恥心のような別の心理的要因がそこにある気がしてならないからだ。マスクを着用する事により、自分をアイコン化しステルス化しようとしているのかも知れない。個人が露出することにより、SNSでは誹謗や中傷など心ない攻撃が匿名性を持って際限なく拡がる時代である。マスクを外せない子供たちは何かに怯えているのだろうか。コロナが遺した社会的な傷跡は余りに深い。子供たちの心にのびのびとした自由な世界が戻るのはいつの日だろう。あの子たちの明るい笑顔を見られるのはいつのことだろう。

新年の挨拶



広報委員（那覇市医師会）
間仁田 守

明けましておめでとうございます。

コロナ禍もほぼ落ち着き、日常が戻ってきたことは大変嬉しく思います。昨年12月にコペンハーゲンで開催された Investigator Meeting にコロナ禍以来3年ぶりに参加することができました。久しぶりの海外でしたが、マスクを着けている人は皆無で、「コロナ、どこ吹く風」といった感じでした。デンマークは「世界一幸せな国」と言われているそうで、高納税国ではありますが、医療費、出産費、教育費は無料と社会福祉がとても充実しているそうです。

さて、今年の干支は甲辰（きのえ・たつ）です。「甲」は第1位であり、優勢であることを表す他、まっすぐに堂々とそそり立つ大木を表しているそうです。「辰」は十二支の中では唯一の架空の生き物、龍（竜）を意味します。水や海の神として祀られてきた龍は、竜巻や雷などの自然現象を起こす大自然の躍動を象徴するものであり、「龍が現れるとめでたいことが起こる」と伝えられており、この2つの組み合わせである甲辰には、「成功という芽が成長していき、姿

を整えていく」といった縁起のよさを表しているといえそうです。

ドラゴンイヤーに相応しく、龍の如く猛々しく、新しいことに挑戦する年にしたいと思います。



「和顔愛語」と
「あいうえお」

広報委員（南部地区医師会）
照屋 勉

あけましておめでとうございます！。2023年は「コロナ」の5類移行もあり、全県的に活気が戻ったような雰囲気がありましたが、まだまだ気の抜けない新年の始まりです！。

さて、小生の今年のテーマは、「和顔愛語（わけんあいご）」…。和やかな笑顔と思いやりの言葉…。「愛語」とは「幸せ！」「嬉しい！」「楽しい！」「ついでる！」「ありがとう！」etc…。まわりを気づかう愛情のこもった言葉です。『『好奇心』を持ち、いつもニコニコ朗らかで、太陽にあたりながら軽い運動を続け、美味しいものを食べてぐっすり眠る！ by 鎌田實氏』、「どんな娘（こ）も笑顔つくれば5割増し！ by 木村泰山氏」、「無理はせずいつも笑顔で上機嫌！」「瞑想と笑顔で続けるウォーキング！」「『脳トレ』と『筋トレ』しながら『ダイエット』！」 by TomTom…。自分の機嫌は自分でとっていきたいものです！。

最後に、教訓系「あいうえお」をまとめてみました。「あ：逢いたい人に逢う！（我逢人！）」、「い：行きたい所に行く！（旅のすすめ！）」、「う：嬉しいことをする！（読学考書！）」、「え：笑顔で選ぶ！（笑顔は0円！）」、「お：美味しいものを食べてぐっすり眠る！（快食快眠のすすめ！）」…。「あ：愛」、「い：命」、「う：運」、「え：縁」、「お：恩」～「愛されて親からもらったこの命！運を信じて、縁に感謝し、恩に報いる！」～「知恩・感恩・報恩！」～今年も「報恩謝徳！」を肝に銘じて、色々な難局をなんくるなんくる『笑顔』で乗り切ってまいりましょう！。ゆたしく、

ゆたしく！。合掌…！。

【P.S. ①】教訓系「かきくけこ」～「か：考えて、感動して、感謝する！」、「き：嫌わず、気づいて、気を配る！」、「く：くじけず、くさらず、繰り返す！」、「け：謙虚に、健康的に、建設的に！」、「こ：好奇心と行動力で貢献する！」

【P.S. ②】会話能力向上系「かきくけこ・さしすせそ」～「か：家族のこと！」、「き：気候のこと！」、「く：食べ物のこと！」、「け：健康のこと！」、「こ：今後のこと！」～「さ：流石です！」、「し：知らなかった！」、「す：素敵です！」、「せ：センスいいね！」、「そ：そうなんだ～！」～如何でしょうか？。



新春の挨拶

広報委員
（国療沖繩公務員医師会）
久志 一朗

新年おめでとうございます。

2023年は夏頃からCOVID-19も落ち着き、院内での感染対策制限も少しずつ緩和され私の働いている緩和ケア病棟では面会制限もコロナ禍前に戻りつつあります。何より当初の防護服+N95マスク+フェイスシールドのスタイルから解放され、マスク越しではあるもの皆の表情も穏やかな雰囲気になりました。

コロナ禍は良い変化ももたらし、オンラインでの参加が許容された学会、セミナー、委員会も多くなりました。しかしながら、登録した学会からの講演会のパンフレット、メールでの連絡が増えてきました。興味をそそられる内容だけに受講するも頭のメモリー不足が気になるところで、何を聞いたか思い出せないことも。やはり、メモを取りながら手も動かさないと簡単には記憶されません。

さて、2024年辰年は、万物が精力的に活動、成長する年とのこと。

私も本年をもって55歳、何でもゴーゴーといきたいところですが65歳まで働くと仮定して

締め10年でもあります。抱負ではなく、個人的にも勤め人としても準備しておかなければならない事柄が頭に浮かんできますが、スピードよりも丁寧さを心掛けたいと思っています。

今年、大切にしたい事。偶然目にした哲学・経済学のコラム・TVインタビューでは、ポストコロナの今後、世の中で大切になってくるキーワードは利他の精神とのこと。今更ながらと思って拝聴すると、いまの時代だからより必要な心掛けと考えさせられました。検索してみると、いにしえから東西問わず著名人の名言によく見られる言葉で、古いことわざでは「情けは人の為ならず」、経済学者ジャック・アタリは「利己的な利他主義」と表現し他人へ良い施しをする事で自分も利益(徳)を得て理想的な関係としています。自分自身、何か迷った時、選択する優先事項として利他主義を考えられるようにしたいと思っています。精神的にも肉体的にも余裕がないと出来ない行いですが、とりあえず長引いている風邪を治すことが先決のようです。



新春のご挨拶

広報委員(琉球大学医師会)
西江 昭弘

皆様、新年あけましておめでとうございます。琉球大学放射線診断治療学講座の西江と申します。昨年より医師会の広報委員を担当しており、新春の挨拶は初めての機会となりますが、昨年を振り返りながら執筆させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

令和3年7月に沖縄へ赴任してはや2年半が経過しましたが、沖縄の気候の良さや人の温かさを感じながら、こちらの生活にも順応してきているのを感じています。過去2回の冬はほとんど半袖で冬を過ごしましたが、昨年は11月から肌寒さを感じており、医局の先生方から立派な沖縄県民だとお墨付きをいただきました。大変嬉しく思っています。

昨年、スポーツ界では日本代表が Soccer World Cup で優勝候補に挙げられるドイツやスペインに勝利、World Baseball Classic で優勝、Basketball World Cup でパリオリンピック出場決定など、明るい話題が多かったと思います。私もそろそろ何かスポーツ系の趣味でも始めようかと思って、琉球アスティーダというTリーグチームの卓球スクールに参加しました。かなりのブランクがありましたが、以前のイメージと現在の自分のギャップに笑いが止まらないのが現状です。月一回の参加を目標にしていますが、琉球アスティーダに所属している張本智和選手に会える機会もあるのではないかと淡い期待を持ちながら、運動不足解消に努めたいと思っています。

琉大病院での診療ではPET/CT 検査が休止する事件がありました。新聞などの報道で、皆様ご存知と思いますが、現在県内のがん診療に迷惑をかけている状態です。挨拶文を執筆している現在、まだ先行き不透明ですが、できるだけ早くPET 診療を再開できるように努力していく所存です。PET の事情に限ったことではありませんが、昨年から自分の中で考え方を一新しました。何か問題が生じた際は悲観するだけでなく、他の何かのチャンスと考えるようにしました。少し気が楽になるのもありますし、その場を凌ぐのではなく未来を見据えることもできそうです。一方でこれまでの自分がまだまだ未熟であったことも感じています。

私は医師会だけでなく、琉大病院でも広報委員(委員長)を務めています。昨年、不足している放射線科医を増やすためのアピールとして、教室のホームページを一新しましたが、広報の重要性はしっかり認識しているつもりです。今年は琉大病院の移転も絡んできますので、その重要性はさらに増してきます。病院ホームページの更新をはじめ、多くの課題がありますが、広報のエキスパートとなるべく努力していきたいと思っています。

皆様にとって良い一年となることをお祈りして、私からの新春のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。